



=政治信条=

政治は 人の幸せを 調整する仕事。

その為には、まず街を歩いて
本当の弱者を知らなければならない。

うらみち健一プロフィール

2023年(令和5年)4月
神奈川県議会議員選挙 四期目当選

【所属委員会】
産業労働常任委員会、予算委員会
【地域活動】
日野町少年野球リーグ(HBBL)顧問

子供に
ツケを
まわさない!

健一

うらみち

令和7年第3回定例会において総額556億3600万円の補正予算可決!!

令和7年最後となる神奈川県議会第3回定例会(9月8日~12月18日)において、総額556億3600万円(国からの重点支援交付金:504億8900万円含む)の補正予算が可決されました。主な内訳は「物価高騰対策」「地域医療体制維持の支援」「教育費支援」等となっています。

また期間中には常任委員会・特別委員会の他、前年度の決算認定を審議する決算特別委員会が開催されるなど、来年度予算編成に向けての議論を重ねました。

知事提案説明

我が国の経済状況を概観しますと、景気は緩やかな回復が続くことが期待されていますが、依然として賃金上昇が物価上昇に追い付いていないことに加え、米国関税措置による影響が懸念されることから、引き続き、物価高に苦しむ地域住民や地域の産業を守る取組を継続、拡充していくことが求められています。本県としても国の総合経済対策等の動きを踏まえ、国の重点支援地方交付金を活用し、物価高の影響を大きく受ける県民生活や事業活動を守るため、必要な支援策の検討を進めて参ります。

☆経済対策(物価高・県財政)

国では、物価高対策や経済を強くするための総合経済対策として補正予算が編成されました。県としては、国の「重点支援地方交付金」を活用し、物価高の影響を強く受ける県民生活や事業活動を守るための支援策を検討していく。ガソリン税・軽油取引税の暫定税率が廃止される(ガソリン税の暫定税率は昨年12月31日で廃止、軽油取引税の暫定税率は本年4月1日に廃止予定)と、本県の実質的な減収額は約110億円になると見込んでおり、県政運営に大きな影響が出る。国には地方の安定的な財源を確保するよう対応を求めていく。

☆地震対策

能登半島地震の発生から2年が経ちました。本県から任期付き職員15人を石川県庁や被災地の町役場に派遣し、被災地の復興に向けた支援に取り組むとともに、活動を通じて被災者支援のノウハウを蓄積している。

また災害時、地域の孤立化の課題に対応するため、暫定的に民間ヘリコプターをチャーターし、応急体制の強化を図っている。昨年7月に津波警報が発令された際には、ヘリコプターを出動させ、短時間で広範囲にわたる情報収集ができ、有効性を再認識した。こうした運用実績を積み重ね、「防災ヘリ」の本格導入に向け検討していく。

(他に、「DV・ストーカー被害者など困難を抱える女性への支援強化」「国際園芸博覧会(GREEN×EXP2027)と観光」に対し説明がありました)

全国初となる取り組みが始まっています

オーラルフレイル健康相談

これまで県では公益財団法人神奈川県歯科医師会などと連携し、「噛む」「飲み込む」「話す」といった“口のまわり”の軽微な衰えが積み重なった状態であるオーラルフレイル(※注1)対策に取り組んできました。

オーラルフレイル自体は病気ではありませんが、お口の機能が低下すると「口腔機能低下症」として治療対象となることがあります。“口のまわり”の軽微な衰えによる、口の些細なトラブルについて、オーラルフレイルのチェックを行い、個人の状況に合わせお口の健口体操や口を開ける訓練、発音の訓練などのオーラルフレイル改善プログラムの指導を行っています。

(注1)オーラルフレイル:歯の喪失や食べること、話すことに代表される様々な機能の「軽微な衰え」が重複し、口の機能低下の危険性が増加しているが、改善も可能な状態のこと。65歳以上の県民の約43%がオーラルフレイルに該当すると推計されています(平成28年神奈川県調査)。



ペトリエゾン(訪問型動物支援員) (※注2)

これまで県では「ペットのいのちも輝く神奈川の実現」の理念を掲げ、「かながわペットのいのち基金」を活用し、動物愛護センターに保護された犬や猫について、公益財団法人神奈川県獣医師会と連携し、病気やケガの治療、ドッグトレーナーによる犬のしつけや訓練の実施、譲渡に繋げる取り組みを推進しています。尚、神奈川県動物愛護センターに保護された犬と猫の殺処分は、犬は平成25年度から12年間、猫は平成26年度から11年間殺処分ゼロを継続しています。一方で、多頭飼育崩壊等、飼い主の何らかの事情により手放されて保護される犬や猫はあとを絶ちません。そこで、ペトリエゾン(「福祉的な支援を必要とする方でペットに関する困りごとがあるケース」をサポートする専任の獣医師)が積極的に福祉関係機関を訪問し、ケースワーカーなどから福祉的な支援を必要とする方のペットに関する情報を聞き取り、適切な飼い方のサポートをすることで、多頭飼育崩壊の未然防止に繋がっていきます。動物愛護施策と福祉施策をクロスさせ、効果的な施策展開を行っています。多頭敷居崩壊を未然に防ぎ、「ペットのいのちも輝く神奈川」を実現してまいります。本県で一つのモデルケースが出せれば、全国の多頭飼育崩壊の解消に繋がっていくことが期待されています。

(注2)ペトリエゾン:「ペット」と「リエゾン」(フランス語で橋渡しの意味で使われる)を掛け合わせた造語。

行政視察

昨年11月に熊本県を視察しました。今回の視察目的は「いのち」でした。母子共に支援を受ける方策を調査しました。

医療法人聖粉会 慈恵病院

当院は、平成19年に諸外国の取組を参考にし、全国初となる「こうのとりのゆりかご(赤ちゃんポスト)」を設置し、遺棄される危険性のある子どもの命を救うため、匿名で子どもを保護されています。

また、妊婦健康診査未受診のまま自宅等で孤立出産に臨む事例も多く、医療介助がない出産は母子ともに危険性が高いため、母子の健康を守るため、事前に保護して病院において安全に出産に臨む、令和3年に内密出産の制度も開始されています。

内密出産は、「子どもの出自を知る権利」と「母親の妊娠・出産をしられたくない権利」との両立の問題等、様々な意見があります。

また出産時だけでなく、その後の子育て支援を切れ目なく行っていくことが重要。母子共に支援も受けることができるような取組等、従来の取組を強化し、当事者に必要な情報が確実に届く仕組みを本県においても検討していかなければなりません。

